

## 英語資格試験の受験指導と英語教員養成

大川 裕也

本稿は、北海道及び札幌市で英語教員になることを志望する学生を対象とした課外講座の実践例を提示するものである。各自治体で実施される教員採用候補者選考検査は、主に教養検査と専門検査から構成される。専門検査においては、各科目に関連した資格を有していることで免除されることもあり、教養検査の出題範囲や出題規模を考慮すると、専門検査免除は教員志願者にとって有利なものとなる。この課外講座は2012年、教員採用候補者選考検査における英語の専門検査免除を目標として開講された。以降、課外講座の開講に至る経緯や約3年間の実践例を詳述し、最後に課題と展望を考察する。

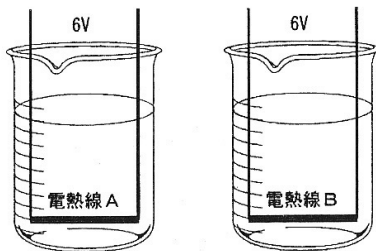
### 第1章

#### 北海道及び札幌市における公立中学・高等学校の教員採用候補者選考検査の概要

2015年現在、北海道及び札幌市における公立中学・高等学校の教員採用候補者選考検査の1次検査は「教養検査」と「専門検査」から構成されている。教養検査では、主として中学校で学習する内容や学校教育に関わる法規の内容が問われることがほとんどである。前者に該当するものの一部を以下に示す。

- (1) 下の図のように、くみ置きの水100gの入ったポリエチレン製のビーカー2個に、それぞれ抵抗の異なる2種類の電熱線A、Bを入れ、電源装置(直流)を用いて6Vの電圧を加えてゆっくりとかき混ぜながら5分間温める実験を行った。それぞれの電流の値は下の表のとおりである。問1、問2に答えなさい。

ただし、室温は20℃で一定、実験開始時の二つのビーカー内の水温は20℃とする。



	電圧 (V)	電流 (A)
電熱線 A	6.0	3.0
電熱線 B	6.0	1.5

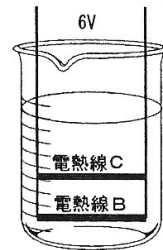
問1 電熱線A, Bの電気抵抗の値について正しいものを選びなさい。

- ア A - 3 Ω      B - 4.5 Ω
- イ A - 18 Ω    B - 9 Ω
- ウ A - 0.5 Ω    B - 0.25 Ω
- エ A - 2 Ω      B - 4 Ω
- オ A - 9 Ω      B - 7.5 Ω

問2 図のように、電熱線Bと並列に電熱線Cをつなぎ、ポリエチレン製のビーカーに入れたくみ置きの水100 gの中に入れ、5分間同様の実験をし、電熱線Aのみを使ったときと同じ熱量を発生させようとしている。このとき、電熱線Cの電圧と電流の値の組み合わせとして適切なものを選びなさい。

なお、電熱線以外の導線からの発熱はないものとする。

- ア 電圧 - 4 V    電流 - 1.5 A
- イ 電圧 - 3 V    電流 - 1.5 A
- ウ 電圧 - 3 V    電流 - 3.0 A
- エ 電圧 - 6 V    電流 - 1.5 A
- オ 電圧 - 6 V    電流 - 3.0 A



(北海道教育委員会 2015a: 9)

学校教育に関わる法規に関する問題は以下のようなものである。

(2) 次の文は、学校教育法第35条の一部である。これを読んで、問1, 問2に答えなさい。

第35条 □1は、次に掲げる行為の一又は二以上を繰り返し行う等性行不良であって他の児童の教育に妨げがあると認める児童があるときは、その□2に  
対して、児童の出席停止を命ずることができる。

- 一 他の児童に傷害、心身の苦痛又は財産上の損失を与える行為
- 二 職員に傷害又は心身の苦痛を与える行為
- 三 施設又は設備を損壊する行為
- 四 授業その他の教育活動の実施を妨げる行為

問1 空欄1, 空欄2に当てはまる語句の組合せを選びなさい。

- ア 1 - 市町村の教育委員会      2 - 保護者  
イ 1 - 市町村の教育委員会      2 - 校長  
ウ 1 - 都道府県の教育委員会    2 - 校長  
エ 1 - 都道府県の教育委員会    2 - 保護者  
オ 1 - 校長                              2 - 保護者

問2 出席停止制度の運用の在り方についての説明として、適切なものの組合せを選びなさい。

- ① 児童生徒の問題行動に対応するためには、日ごろからの生徒指導を充実することが、まずもって必要であり、学校が最大限の努力を行っても解決せず、他の児童生徒の教育が妨げられている場合に、出席停止の措置が講じられることになる。
- ② 出席停止の制度は、本人に対する懲戒という観点と、学校の秩序を維持し、他の児童生徒の義務教育を受ける権利を保障するという観点から設けられた制度である。
- ③ 事前の指導の在り方として、教職員が児童生徒の悩みや不安を受け止め、カウンセリングマインドを持って接するよう努めることが重要である。
- ④ 学校は、出席停止の期間中、当該児童生徒が学校や学級へ円滑に復帰できるよう、反省文、日記、読書その他の課題学習をさせる等適切な方法を採用することとなるが、家庭訪問は行ってはならない。

- ア ①②      イ ①③      ウ ②③      エ ②④      オ ③④

(北海道教育委員会 2015a: 17)

以上のような大問が20問設けられている。出題範囲はきわめて広く、準備をせずに高得点を取得することは不可能である。教員志願者の多くが教養検査の準備に時間を割かなければならないことは言うに及ばない。

次に、専門検査を概観する。以下に例示するのは、中学校及び特別支援学校中等部（英語）の専門検査（I）の一部である。

(3) 英文が説明する最も適切なものを選びなさい。

an extra force used when pronouncing a particular word or syllable

ア tempo    イ compound    ウ intonation    エ stress    オ rhyme

(北海道教育委員会 2015b: 1)

(4) 対話文の空欄に入る最も適切なものを選びなさい。

A : What did you say? Are you serious?

B : Please don't take  at my frank criticism.

ア insult    イ away    ウ irrigate    エ devote    オ offense

(北海道教育委員会 2015b: 2)

以上に加え、語を並べ替えて文を完成させる問題やいわゆる長文読解問題が出題される。中学校及び特別支援学校中等部の問題で使用される英語のレベルはそれほど高くなく、高等学校で扱う英語を完全に習得していれば高得点の取得が期待できる。その一方で、専門検査を軽んじている受験生にとってはかなりの難問といえるかもしれない。

北海道及び札幌市の公立学校の英語教員採用においては、一定の基準を満たしていれば第1次検査の専門検査が免除される。2013年度以前の基準は「英検準1級」, 「英検1級」, 「TOEIC スコア 730 点以上」などであったが、2014年度以後、英検は「1級のみ」、TOEIC は「860 点以上」と変更された。2014年度以降は免除のための基準が実質的に引き上げられたことになる。しかし、先に挙げた教養検査で出題される膨大な範囲をカバーしなければならないことを考慮すると、免除を受けることができる志願者は有利である。さらに、本稿では挙げなかったが、高等学校の専門検査はレベルが高く、高い英語力を要するため、免除は必須と考えるのが当然である。

以上のような第1次検査を突破した者が第2次検査の受験資格を得る。第2次検査は教科等指導法検査や論文検査などから成り立っており、受験生にとっての最難関であると思われる。

## 第2章

### 札幌大学における英検・TOEIC 受験指導のための課外講座開講に至る経緯

上述の通り、少なくとも北海道及び札幌市内の公立中学校及び高等学校の英語教員として採用されるには、多くの難関を突破しなければならない。とりわけ、教養検査の出題範

困はきわめて広く、準備に割くべき膨大な時間を考慮すると、英語の専門検査の免除を望まない者はいないといえるだろう。そのような学生からの強い要望があり、2012年1月、課外講座を立ち上げるに至った。専門検査が免除されるための当時の基準は、英検準1級、英検1級、TOEICスコア730点以上などであったので、集中的に講座を実施すれば基準を満たすことができると思われた。2012年1月当時に3年生だった学生は、採用試験を約半年後に控えており、準備のための時間が限られていたため、彼らの要望を尋ねたところ、全員一致で「英検準1級」の対策をしてほしいとのことであった。当時の2年生の受講生も賛同してくれた。4月を迎え年度が変わり、先述の3年生は4年生、2年生は3年生に進級した。教員採用候補者選考検査の第1次検査が実施される6月末日まで課外講座は続いたが、7月以降も講座を続けてほしいという要望があり、最終的には4年生が卒業を控えた翌年2月まで週1回のペースで開講した。成果は後の章で述べることにする。

4年生が卒業し2013年度に移行した際、開講を一時中断せざるを得ない状況になった。最大の理由は、2014年度以降の専門検査の免除基準が英検は1級、TOEICスコアは860点以上に引き上げられたためである。基準変更の旨は以前から周知されていたが、筆者はこの変更にとまどった。そもそも英語の専門検査の水準が上記の新基準と同等であるのか。現職の英語教員でこの新基準を満たす者はどのくらい存在するのか。疑問が頭から離れることはなかった。そのような中、教員採用候補者選考検査の免除を受けるか否かに関わらず、講座を再開してほしいという学生が数名おり、前年度と同様に英検準1級の対策を再開することにした。この年度に受講した学生は主に英語学科4年生であったが、教員志望者に限定しなかったため、法学部の学生も受講することがあった。英語習得において多様な目的をもった受講者たちに出会えたことで、筆者の教育経験はより豊かなものになったと実感している。

さまざまな学生と接しているうちに2014年度へと移行したが、免除基準が上がったこともあり、年度当初は受講希望者がいなかった。そのため、約半年ほど開講を断念せざるを得なかった。しかし、当年度において筆者は札幌大学で「TOEIC A」及び「TOEIC B」を担当することになり、このことが課外講座の再開につながった。「TOEIC A」と「TOEIC B」は主に英語専攻の2年生を対象としたもので、学生の習熟度に応じてそれぞれ3クラス（Advanced, Intermediate, Basic）が設けられていた。筆者の担当クラスはAdvancedクラスで、教員志望者が多く履修していた。当クラスを履修していた2年生の教員志望者たちは、英検1級よりもTOEICスコア860点を目指す方が現実的だと考えており、TOEICのスコア向上を目標とした講座の開講を求められたのである。

2012年当時は英検準1級の合格を目標に掲げて開講したが、その目標がTOEICスコ

ア 860 点以上の獲得へと変わった。しかし、2015 年現在に至るまでの約 3 年間を通して、講座の内容はさほど変わっていない。というのは、資格取得を最終目標にするのではなく、将来あらゆる場面で応用可能な包括的な英語力を習得してほしいということを筆者は熱望しているからである。先の 2 年生は現在 3 年生になり、教員採用候補者選考検査まであと 8 か月を残すのみとなった。受講生は毎年変わるの、それぞれに応じた講座内容を計画しつつ、今後も開講を続ける予定である。

### 第 3 章

#### 教員志望者の苦手分野

2002 年度より新たな学習指導要領のもと学校教育が展開された。本章は新学習指導要領の是非を議論することが目的ではなく、主に高等学校における新学習指導要領のもとで教育を受けてきた英語教員志望者の際立った特徴、とりわけ苦手分野に焦点を当てる。

多くの英語教員志望者がそうであるように、英語を母語として習得していない場合は、母語とは異なる方法で英語を習得しなければならない。そのための一つの手段が、文法概念の習得である。「主語」や「名詞」といった用語やそれが指し示す概念を知ること、母語と英語の共通点を見出し、外国語としての英語を習得するのである。新学習指導要領の導入以後、英語の文法概念だけに特化した教則法は見られなくなったが、英語教員志望者の文法知識はどの程度のものであろうか。筆者がこの講座で指導してきた受講生を思い起こすと、深い部分にまで及ぶ文法知識を有する受講生はきわめて少ない。例えば、以下のような文は通常非文法的と判断されるのだが、受講生はその理由を説明できる（「\*」は当該文が非文法的であることを表す）。

(5) \*This a bag.

受講生たちは「(主語に対応する) 動詞がない」と主張するが、ご名答である。しかし、以下の 2 例を提示した際、両者の違いがわからないと回答する教員志望者がいた。

- (6) a. the man swimming in the pool  
b. The man is swimming in the pool.

両者が適格であることは言うまでもないが、この差異を説明できないということは、両者

は相互交換可能な (interchangeable) 文であると想定していたことになる。当該学生はこれまでの英語学習において、(6b) が示すような *is* の有無に無関心であったに違いない。両者ともに適格なのだから、この問題に無関心であってもよいと刷り込まれた可能性も否めない。そのような学生が教員志望者であることに閉口した記憶があるが、この学生との問答は筆者が課外講座を立ち上げるきっかけの一つとなった。

さらに、詳述は後の章に委ねるが、英文中の主語 (主部) を見出すことに不安感を抱く学生が多いことも特筆すべきことである。例えば、(7) の文である。悪文であるが、非文法的ではない。

(7) a. The boy the woman the man the girl loved kissed hated left.

(8) a. the man whom the girl loved …(A)

b. the woman whom (A) kissed …(B)

c. the boy whom (B) hated …(C)

d. (C) left.

まさに文法概念の理解度を測る試金石となるような文である。(8d) が示すように、本文中の唯一の本動詞が *left* であることに気づく学生はきわめて少ない。ましてや、(7) の文が (8) のような階層構造から成立していることに気づくこともない。筆者が助けの手を差し伸べても、数分間全く理解の兆しを見せなかった学生もいた。多くの読者が察しているかもしれないが、教員志望者の苦手分野は文法概念であると明言できるだろう。

## 第4章

### 課外講座の内容と実践例

英語教員を志望する学生からの要望があり、本講座は2012年1月に開講した。当初は毎週火曜日の午後5時から7時まで行うことが多かった。出席者は週ごとに異なったが、英語学科の4年生5名と同3年生2名が主なメンバーであり、回によっては出席者が10名程に至ることもあった。本章では、過去3年間を通しての実践例を紹介する。

#### 1 英字新聞の内容把握

最初の1時間は教材として英字新聞 (主に *The Nikkei Weekly*) を使用した。採用した新聞記事の内容は時事問題や文化、慣習がほとんどで、学生の注意や興味を引きつける

よう努めた。まず、筆者が(9)に示されているような新聞記事を学生に配布する。続いて学生は **timed reading** (特定の箇所を指定された時間内に読みこなすための訓練) を行う。(9a) の場合、最初から最後までを読むのに必要な時間をおおむね5分とした。開講当初は時間内に通読できない学生が多かったが、次第に慣れて、ほとんどの学生が時間内に通読できるようになった。通読させた後は、筆者が記事の内容に関わる質問を日本語または英語で提示し、それに対して学生は日本語または英語で返答する練習を行った。その間、学生が理解していない箇所や誤解している箇所を見つけ、適宜解説した。

(9) a.

## 18 NEWPRODUCTS

July 2, 2012

第1種郵便物認可

THE NIKKEI WEEKLY

## Kirin takes beer engineering to new degrees of frozen, redefined taste

SHOTARO MIYASAKA  
Staff writer

**W**hat beer lover doesn't appreciate a cool, frosty glass of the stuff on a hot day? And what beer lover doesn't like a satisfying head on that beer? But making the head so cold it is actually frozen? It must be Kirin Brewery Co.'s latest way to enjoy a summertime brew.

Kirin engineers have found a way to serve beer so cold that the foam on top is minus 5 C (23 F). Though it looks like whipped cream, it has a slushy texture like shaved ice. Making its debut this spring, Frozen Draft was developed by Kirin's engineers to add a new twist to serving beer.

At a bar in Tokyo, the order of "frozen foam beer, please" has been a common refrain since early March. The bar is one of the first to add Frozen Draft to its lineup of Kirin's Ichiban Shibori offerings.

"This isn't just cold beer. It has an interesting and different texture," one customer said.

Another noted that, "I don't just want to drink it, I want to try serving it too."

### Temperature sweet spot

The beer industry has been responding over the past few years to the demand for colder beer by offering so-called below-zero beer.

Both Heineken, and Asahi Super Dry can be found in super-cold versions, and other breweries have released similar icy brews.

Using a special server, bars pour beers that are normally served at above 5 C at temperatures as low as minus 2 C, with the extra cooling coming at the tap. Though chilled and technically below the freezing point of



Soft-serve ice cream? No, it's beer, served at below freezing, which requires a special serving machine that creates the distinctive head.

water, these beers are still liquid.

Frozen Draft on the other hand, is so cold that the head is actually frozen. If untouched, a typical beer head will dissolve in about six minutes. But Frozen Draft's head, which has a frozen structure but is not a solid, can last for up to 40 minutes, and keep its shape.

### Unprecedented challenge

What inspired Kirin to do this? The brewer was late to the ultra-cold beer trend that rival brewers started in 2010. Later that year, Kirin decided to give it a go, but with a different approach — redesign the server itself.

The technology behind a beer tap has not changed that much over the years. But Kirin's engineers had an even more complex challenge: How can beer be

served so cold that it is frozen, but not frozen solid? The answer would have to be a feat of temperature control.

Then they had a thought: How about freezing not just the end product, but the whole thing?

But this just threw another wall in their path to new beer territory. There were no precedents when it came to frozen beer and no specific vision of how to drink such a thing.

In February 2011, the engineers hit upon the idea that broke through that wall. As a test, the team had completely froze the beer, but as anybody who has put a beer in the freezer too long will attest, this left much to be desired. But one of the developers brought in a blender from home, threw in the frozen beer, and produced a sur-



Actress and Kirin spokeswoman Yu Aoi warms up to the new beer.

prise — a delicious surprise.

At the time, the project was looking at many ways to serve beer ultra-cold. Then on March 11, the Great East Japan Earthquake struck, and the ensuing power shortages drove the team to abandon chilling beer with ice water — an energy-consuming process. On March 31, the development goal for the beer server was officially switched from just chilling the beer to actually serving it frozen.

On April 19, a taste test using the new idea was held in front of the company bosses. They liked what they saw, sensed its potential, and decided to double the size of the dedicated development team — from two to four. The marketing and sales divisions were also mustered, and the Draft Innovation Project was officially up and running.

### Smoothie moves

The team was given about two months to fully develop the project for trial sales by sum-

mer. The team toyed with the idea of creating a texture like a smoothie, but none on the team had experience with a smoothie machine. So they built their own, and rebuilt it, until it became a beer-specific device that could serve Kirin at just the right temperature, air content and churning speed.

The development team completed a prototype in mid-June. From July, they began test selling to places such as the company's in-house restaurant for factory visitors. Instead of traditional silver, the servers are white and have a window to reveal the churning process.

"The word 'development' when used with beer often refers to improvements in taste," said the engineer. "But this time, we used it on regular beer to bring out a new value."

Kirin's goal is to have the new beer servers in 1,000 locations across the country this summer.

(The Nikkei Weekly 2012年7月2日)

b. ... but as anybody who has put a beer in the freezer too long will attest, ...



前章でも指摘した通り、学生の誤解の根幹にあるものは文法知識の欠如であることがわかった。(9b)に着眼しよう。この文は(9a)で矢印が施された部分であるが、受講者の多くは主語(主部)の長い文に出くわすと、怯んでしまう傾向がある。もちろん、文中では1つの主語(主部)と1つの動詞が対応することを理解しているからこそ、「この文の主語(主部)はどこまで続くのだ」という不安感を毎回のように味わうことになるのである。さらに、文法知識の欠如が露呈されるのは、受講生による文法用語の使用法である。上述の不安感を味わったある学生が、「この文の主語は長いので、修飾している動詞が見つからない」と発した。筆者は間もなくこの受講生による吐露の含意を受け止めた。この受講生は「主語と動詞の呼応関係」を「修飾・被修飾関係」と思い込んでいたらしい。この受講生は他の受講生よりも文法知識が豊富であると思っていたが、文法概念を適切に会得していなかったようである。

## 2 リスニングとシャドーイング

問題文に書かれていることを「読み」、それに解答または回答するという形式で種々の資格試験は出題される。しかし、外国語の資格試験となると「聞く」または「聴く」能力も試される。大学入試センター試験の「英語」において2006年度からリスニング試験が導入されたこともあり、日本における英語教育でもリスニングの指導に余念がない。その甲斐あってか、2002年度以降の新学習指導要領に依拠した教育を受けてきた世代は、それ以前の世代よりもリスニング力に長けているといわれることがある。確かに、簡単な英語でコミュニケーションをするという意志は以前の世代よりも強いが、正確に情報を受信したり送信したりする意志は弱いように感じられる。しかし、資格試験で問われる能力は言うまでもなく「正確さ」である。結局のところ、リスニング問題に挑戦しても正答に至らず、高スコアを維持できないのである。

本講座の受講生たちも上記のような状況に悩んでいた。しかし、リスニングを重視した教育を受けてきたこともあり、英語の音声を「本物らしく」再現することができる学生が多いことは幸이었다。筆者はその点に着眼し、リスニング能力の向上のために、シャドーイングによる指導法を導入することにした。シャドーイングとは、聞こえてくる文を数秒遅らせて聞き手が発する練習法で、リスニングのみならず通訳の技術を高めるための指導法としても確立されている。本講座ではさまざまな教材を用いたが、最も多く利用したのがNHKの「ニュースで英会話」である。この番組はテレビやラジオで放送されているが、インターネットでも視聴可能である。インターネットではスクリプトを入手することができるので、この教材はリスニングのための恰好の教材である。

筆者が実践した指導法は以下の通りである。まず、適当と思われるニュース（1分30秒程度）をネット上で筆者が選び、それを受講生に聞かせる。有り難いことに、このサイトには実際に放送されたニュースだけでなく、ニュース原稿を教材として利用できるよう、最適な速さで読み直したのももアップされており、後者をシャドーイング用の教材として利用したのである。以下の例を参照されたい。

(10) **Movie-goers in China are flocking to cinemas to catch one of Japan's most beloved characters on the big screen. Animated film "Stand By Me Doraemon" was a blockbuster in Japan, and now, it's a hit in China.**

**Theaters in Beijing were crowded on its opening weekend. The movie tells the story of Doraemon, a robotic cat with a magic pocket. The character is a cultural icon in Japan.**

(Little boy)

"It was so much fun. Doraemon is my best friend."

**The film took up one-third of Beijing's big screens, surpassing offerings from Hollywood. Officials at Japan's embassy in Beijing say it is the first major Japanese release there since relations between the two countries soured three years ago.**

(NHK ニュースで英会話 2015年6月15日)

(10)は複数の文から構成されているが、文ごとにポーズを置き、学生にシャドーイングをさせた。この方法が難しいと感じる学生には、スクリプトを穴埋め形式にしたものを提示し、空欄の穴埋めをさせた。このように、正確な英文を受信させることに努めた。このやり方はオーラルインタープリテーション（音声解釈表現法）の指導理念にも通じ、スピーキングの向上にも十分応用可能な指導法である。

本章では過去3年間の実践例を述べた。資格の取得のために英語を習得するのではなく、真の英語力を習得することが目的であることをこれまで一貫して強調してきた。資格試験は目下の英語力を測る道具にすぎない。本講座の受講生が将来教職に就いた際もこの点を念頭において、後進の指導に励んでくれることを願ってやまない。

共同プロジェクト成果報告



課外講座の様子（2015年6月と9月に撮影）

## 第5章

### 課外講座の成果と課題

手探りの状態で開講した課外講座であるが、開講以来3年が経過した。その期間中、1人の受講生が2012年度に英検準1級に合格した。その受講生は当時、札幌大学外国語学部英語学科の4年生だった。選考検査終了後の合格であったが、開講1年目で準1級の合格者を輩出することができた。しかし、受講生自身の英語習得に対する意欲や英語力に向上は見受けられるが、際立った成果として表れないのが現状である。故に、課題が多く残されている。

最初に言及すべき課題は、受講者による自学自習の不足である。受講者は意欲が高く、講座には参加する。しかし、同じ志をもつ者が集う講座に参加することだけで、十分に英語を習得したと満足しがちである。むしろ、講座が開講されていないときの時間の使い方が最も重要であることを筆者は幾度となく説いているのだが、あらゆる理由で受講者たちは自学自習を回避しているように思える。独力で物事を習得する力が欠如していると、選考検査そのものに合格することも難しくなる。

加えて、読書習慣が身につけていない受講生がいることも無視できない。書物を通して知識を体得することが学びの根底にあるはずである。英語の資格試験に出題される読解問題は、限られた時間内に必要な情報を収集する能力を問うのであるから、読書習慣のない者は完全に不利である。これまで受講生に対しては「自分が将来教職に就いた際、『私は読書が嫌いです』と生徒たちの前で堂々と発言できるか」と問い詰めてきた。課題図書を指定して、本講座で輪読することも計画したが実現には至っていない。何らかの対処が必要である。

2014年度以降の専門検査の免除基準が上げられたため、免除該当者を輩出することはより一層難しくなった。しかし、志のある受講生の意欲をそぐことなく、今後も専心努力するつもりである。

## 第6章

### 高大連携事業（北海道札幌平岸高等学校と札幌大学）の実践例

札幌大学は現在高大連携事業に取り組んでいる。大学の教員と10代の高校生が知識を分かち合うということで、高校生は知的欲求が刺激され、高い意欲を携えて大学に進学することが期待される。このような連携は、将来有望な人材の育成の一助となっていると思われる。

2015年8月、筆者は北海道札幌平岸高等学校の生徒に「目的に応じた英語学習法と英検対策」という題目で90分間の講義を行うことになった。参加した高校生は10名であった。最も強く主張したことは、英語の学習方法は一様ではなく、目的に応じて学習方法を見出さなければならないという点である。筆者はその目的を以下の4点に絞った。

- (11) a. 大学入試に必要である。
- b. 資格（英検、TOEIC、TOEFL など）が欲しい。
- c. 英語圏に留学したい。
- d. 英語を使って仕事をしたい。

いずれも高校生が掲げると想定される目的である。(11a)から(11d)に進むに連れて、高い英語力が求められることに言及し、筆者は生徒自身がどのような目的をもっているかを問うた。さらに、(11a)と(11b)を目的とする場合、そして(11c)や(11d)を目的とする場合で学習法が異なることを紹介した。両者において、語彙を習得することは必須であるが、習得のための方法が異なるのである。動詞 *reach* を例としよう。この動詞をどのようにして記憶に留めておくべきか。自動詞と他動詞の区別をせず「到着する」と記憶すべきか。それとも、*reach the top floor* や *reach my son* のように句として記憶すべきか。(11a)と(11b)だけを目的とするのであれば、おそらく前者の方法で事足りる場合が多いだろう。大学入試や資格試験の多くは受信型で、発信型ではないからである。つまり、読んだり聞いたりするだけであれば、少なくとも英語の意味を日本語で理解できればよいのである。しかし、(11c)や(11d)は水準が高く、発信型の英語力が要求される。その際、英語の正しい使い方を知識として定着させなければならない。適格と判断される英語にたくさん触れ、繰り返し暗唱し、自由に使えるようにならなければならない。

次に筆者は、発信型の英語力の養成として、シャドーイングの実践を試みた。先にも述べたように、この練習方法はスピーキング力の向上にも役立つためである。「聞けないものは話せない」そして「話せないものは聞けない」ことを強調したが、英語学習歴が短い高校生にとってシャドーイングは難儀だったようである。

以上が高大連携事業の講義の概要である。90分という限られた時間ではあったが、筆者のメッセージは伝わったと確信している。

## 第7章

### まとめと展望

本稿では、英語教員養成としての英語資格試験の受験指導の実践例を紹介してきた。資格試験対策という名目のもと、独自の課外講座を展開してきたが、最終的な目標は包括的な英語力の習得である。北海道及び札幌市の英語教員採用において、英検1級とTOEICスコア860点以上が専門検査免除の主たる条件であるが、これ程の英語力があればさまざまな場面で英語を応用することができる。やはり、教員志望者に対して資格試験だけの対策を設けることはあまり合理的ではなく、さまざまな場面で応用可能な英語力を習得させる方が得策といえるだろう。これにより、英語を教えるだけの教員ではなく、実務的に英語を使用できる教員も増えると見込まれる。

昨今の学生、あるいは学生が受けてきた教育に対してさまざまな批判が集中しているが、英語に関してはリスニングを重視した教育を受けてきている。意欲のある学生は、英語の音声面に長けていることが多い。このような学生たちの長所を十分に生かせるような教授法を確立することが今後の課題である。そして、さまざまな場面で英語を駆使できる教員を養成することが何よりの急務である。

本講座は大学のカリキュラムに従うものではないので、札幌大学に在籍しない一般市民の方々が参加することも実質的に可能である。英語教員になることを志望する高校生も多いはずである。一般市民の方々が参加することで、大学生は多方面において刺激を受け、よい意味での競争意識が高まると思われる。教える側も、大学のカリキュラムに縛られない授業内容を考案しやすくなるだろう。外部から講師を呼ぶことも大いに価値がある。これまで本講座に大学生以外の方々が参加した事例はないが、今後は検討したいと思う。本講座を幅広く展開することで、最終的に地域住民への貢献に発展することが期待できる。

### 参考文献

- 北海道教育委員会（2015a）『平成28年度 北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査 第1次検査 教養検査 問題用紙』
- 北海道教育委員会（2015b）『平成28年度 北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査 第1次検査 専門検査（I）問題用紙 <中学校／特別支援学校中等部・英語>』